

学校法人 国際総合学園 新潟工科専門学校

平成29年度学校情報

新潟工科専門学校 学校情報

～ 目次 ～

1. 学校の概要	
(1) 校訓	・・・ 2
(2) 要綱	・・・ 2
(3) 教育目標	・・・ 2
(4) 学校名称	・・・ 2
(5) 設置者	・・・ 2
(6) 学校所在地	・・・ 2
(7) 学校の沿革	・・・ 3
2. 各学科の教育	
(1) 建築士学科	・・・ 7
(2) 建築デザイン科	・・・ 9
(3) インテリアデザイン科	・・・ 11
(4) 建築大工科	・・・ 13
(5) 環境測量科	・・・ 15
(6) 電気電子工学科	・・・ 17
(7) ものづくり工学科	・・・ 19
(8) 建築設備科	・・・ 21
(9) 建築士専攻科	・・・ 23
(10) 資格取得、検定試験合格実績	・・・ 25
(11) 進級・卒業の要件等	・・・ 26
3. 教職員	
(1) 常勤職員	・・・ 28
(2) 非常勤職員	・・・ 28
4. 実践的職業教育	
(1) 企業と連携した実習・演習	・・・ 29
(2) 就職支援体制	・・・ 33
5. 様々な教育活動・教育環境	
(1) 学校行事	・・・ 34
(2) 課外活動	・・・ 34

1. 学校の概要

(1) 校訓

創造・挑戦・実行

(2) 要綱

本校の「建学の精神」「教育方針」を日常生活の中で実現するための指導が学生生活に関する諸項目です。学生はこれを遵守することによって、規律ある学生生活を送り、集団生活の体験を通じて本校校訓である「創造」「挑戦」「実行」の精神を体得してゆくことが必要です。学生は、本項目をよく読み、これを理解し、かつ実効する。

(3) 教育目標

建学の精神

「将来の職業に関する高い専門能力を追求しながらも単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造力に満ちた人材育成の場であることを教育の基本理念とし、常に新しく変化していく時代に即した工科専門学校として、新潟県の教育・産業の振興に寄与するものである。

教育方針

「スペシャリストの育成」

本校は現代社会の要請、特に地元産業の求める人材の育成を目的とする。そのため、実社会で要望され、卒業後すぐに役立つ資格、技能、知識を備えた「スペシャリスト」を育成する。

「豊かな人間性の育成」

資格、技能、知識を持つと同時に、社会的常識と基本マナーを備え、明るく健康で建設的な意志をもった技術者を育成する。

(4) 学校名称

学校法人 国際総合学園 新潟工科専門学校

(5) 設置者

学校法人 国際総合学園

理事長 池田 弘

学校長 仁多見 透

(6) 学校所在地

〒950-0932 新潟市中央区長潟2-1-4

TEL 025-287-3911

FAX 025-287-7626

(7) 学校の沿革

・平成5年7月12日	宗教法人愛宕神社(代表役員 池田 弘)が新潟県知事あて、専修学校新潟工科専門学校 の設置について認可申請書提出
・平成5年12月6日	新潟県知事より宗教法人愛宕神社あて、専修学校新潟工科専門学校の設置認可書を交付
・平成6年2月14日	宗教法人愛宕神社(代表役員 池田 弘)が新潟県知事あて、専修学校新潟工科専門学校 の設置者の変更(学校法人国際総合学園 代表役員 池田 弘)書を提出
・平成6年2月21日	新潟県知事より宗教法人愛宕神社及び学校法人国際総合学園あて、専修学校新潟工科 専門学校の設置者変更の認可書を交付
・平成6年4月1日	開校(新潟市米山3丁目1番53号) 初代学校長に渡辺 敏彦が就任
・平成7年4月1日	校舎新築移転(新潟市長潟2丁目1番4号) 電気電子工学科(2年制)を新設
・平成8年4月1日	建築土木工学科を建築設備工学科に名称変更 土木開発工学科(2年制)と環境科学工学科(2年制)を新設
・平成9年4月1日	建築設備工学科を建築工学科に名称変更 車体整備工学科(2年制)、設備設計工学科(2年制)、機械設計工学科(2年制)、 環境造園工学科(2年制)、バイオ生産工学科(2年制)、総合建築工学科(3年制)、 総合土木工学科(3年制)、臨床工学技士科(3年制)を新設
・平成10年4月1日	情報CAD工学科(2年制)、インテリア工学科(2年制)、測量設計工学科(2年制)、

	ネットワーク工学科(2年制)、自動車マーケティング科(2年制)を新設
・平成11年4月1日	情報CAD工学科を建築CAD設計科、設備設計工学科を建築設備設計科、土木開発工学科を土木工学科に名称変更 建築設計科(2年制)、測量工学科(2年制)、測量土木設計科(3年制)を新設
・平成11年9月24日	学校法人国際総合学園の理事長に渡辺俊彦が就任
・平成12年4月1日	インテリア工学科をインテリアプランニング科、車体整備工学科を車体工学科、自動車マーケティング科をモータースポーツ科に名称変更
・平成13年4月1日	機械設計工学科を機械システム設計科、環境造園工学科を環境造園設計科に名称変更 バイオ生産工学科(2年制)を廃止
・平成14年4月1日	医療専門課程を「新潟医療テクノロジー専門学校」へ移行 臨床工学技士科(3年制)を廃止
・平成15年4月1日	福祉住環境デザイン科(2年制)、建築研究科(1年制)、ゲームテクノロジー科(2年制)、1級自動車整備士科(2年制)を新設 総合土木工学科(3年制)を廃止
・平成16年4月1日	自動車系学科を「国際自動車工科専門学校」へ移行 福祉工学科(2年制)、バイオテクノロジー科(3年制)、フードテクノロジー科(2年制)を新設 自動車工学科(2年制)、車体工学科(2年制)、モータースポーツ科(2年制)、1級自動車整備士科(2年制)を廃止
・平成17年4月1日	2代学校長に笹本正司が就任 機械システム設計科をものづくり工学科、インテリアプランニング科、建築をイン

	<p>テリアデザイン科、 建築研究科を建築工学研究科、フードテクノロジー科を食品工学科に名称変更</p> <p>バイオテクノロジー科(2年制)、醸造工学科(2年制)、化粧品工学科(2年制)を新設</p> <p>総合建築工学科(3年制)、ゲームテクノロジー科(2年制)、旧バイオテクノロジー科(2年制)、 を廃止</p>
・平成18年4月1日	<p>測量工学科を都市環境建設科に名称変更</p> <p>生活工芸デザイン科(2年制)、食品分析化学科(3年制)、食品バイオ工学科(3年制)、 醸造学科(3年制)を新設</p> <p>建築設備設計科(2年制)、環境造園設計科(2年制)、建築設計科(2年制)、 福祉住環境デザイン科(2年制)、福祉工学科(2年制)を廃止</p>
・平成19年4月1日	<p>食品分析化学科(3年制)を食品工学科(3年制)に名称変更</p> <p>設備設計科(2年制)を新設</p> <p>土木工学科(2年制)、測量土木設計科(3年制)、バイオテクノロジー科(3年制)、 食品工学科(2年制)、醸造工学科(2年制)、化粧品工学科(2年制)を廃止</p>
・平成20年4月1日	<p>学校法人国際総合学園の理事長に池田弘が就任</p> <p>3代学校長に和田信彦が就任</p> <p>建築工学研究科を2級建築士受験科に名称変更</p> <p>食品工学科(2年制)、醸造工学科(2年制)を新設</p>
・平成21年4月1日	<p>建築士専攻I科(1年制)、園芸デザイン科(2年制)を新設</p> <p>2級建築士受験科(1年制)、生活工芸デザイン科(2年制)、食品バイオ工学科(3年制)を廃止</p>
・平成22年4月1日	<p>4代学校長に永野英樹が就任</p> <p>環境科学工学科(2年制)、インテリアデザイン科(2年制)、建築CAD設計</p>

	科(2年制)、 食品工学科(3年制)、醸造学科(3年制)、設備設計科(2年制)、食品工学科(2年制)、 醸造工学科(2年制)を廃止
・平成23年4月1日	農業系は「新潟農業・バイオ専門学校」へ移行 都市環境建設科を環境測量科に名称変更 建築士専攻Ⅱ科(2年制)、建築デザイン科(2年制)、建築大工・設備科(2年制)、 インテリアデザイン科(2年制)、クリエイティブ発明科(2年制)を新設
・平成24年4月1日	5代学校長に齋藤麻一が就任 建築大工・設備科を建築大工科に名称変更 エコサイエンス科(2年制)を新設 建築学科(2年制)、バイオテクノロジー科(2年制)、園芸デザイン科(2年制)を廃止
・平成25年4月1日	クリエイティブ発明科を商品開発工学科、エコサイエンス科を環境エネルギー工学科に名称変更 建築士学科(2年制)を新設
・平成26年4月1日	ものづくり工学科をものづくり創造工学科、建築士専攻Ⅰ科を建築士専攻科、環境エネルギー工学科を電気・エネルギー工学科に名称変更 建築設備科(2年制)を新設
・平成27年4月1日	6代学校長に仁多見透が就任 建築士専攻Ⅱ科(2年制)、商品開発工学科(2年制)を廃止
・平成28年4月1日	ものづくり創造工学科をものづくり工学科に名称変更
・平成29年4月1日	建築設備科を建築設備システム科に名称変更

2. 各学科の教育

(1) 建築士学科 2年制 定員：30名 (男女)

2級建築士の最短合格を目指し、本科（2年制）卒業後、更に建築士専攻科（1年制）に進学します。本科では、建築に関する基礎知識を学びながら、製図やCAD設計、建築物のデザインなどの実習を通して、基本技術をしっかり習得します。建築士専攻科へ進学後は、2級建築士試験の対策授業（学科試験、設計製図試験）を中心に高度な知識と技術を習得し、福祉住環境コーディネーターやインテリアコーディネーターなどライセンス取得も目指しながら、建築業界で活躍できる実践力を身に付けます。

■工業専門課程 建築士学科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・ 選択の 別	年間授業時間 数		合計 時間 数
			1年次	2年次	
専門科目	建築計画Ⅰ	必修	32		32
	建築計画Ⅱ	必修		32	32
	建築史	必修	32		32
	住宅計画演習	必修	32		32
	設計演習	必修		96	96
	建築特講	必修		96	96
	環境工学	必修	32		32
	建築設備	必修	32		32
	構造力学Ⅰ	必修	64		64
	構造力学Ⅱ	必修		32	32
	一般構造Ⅰ	必修	32		32
	一般構造Ⅱ	必修		16	16
	住宅模型演習	必修	48		48
	建築材料	必修	32		32
	建築施工Ⅰ	必修	64		64
	建築施工Ⅱ	必修		32	32
	建築積算	必修		32	32
	建築法規Ⅰ	必修	64		64
	建築法規Ⅱ	必修		32	32

	建築法規演習	必修		32	32
	建築計画演習	必修		32	32
	建築構造演習	必修		32	32
	構造力学演習	必修		32	32
	建築関連法規	選択		※16	※16
	(学科授業時間数小計)		464	496	960
	設計製図 A	必修	96		96
	設計製図B	必修	48		48
	建築 CAD 設計 I	必修	96		96
	建築設計実習	必修		96	96
	材料実験	必修		24	24
	CAD 実習 I	必修	96		96
	CAD 実習 II	必修		48	48
	建築総合実習	必修		144	144
	プレゼン技法	必修	32		32
	建築学実習	必修	16		16
	(実習授業時間数小計)		384	312	696
一般科目	就職実務 I	必修	48		48
	就職実務 II	必修		32	32
	(学科授業時間数小計)		48	32	80
	(実習授業時間数小計)				
専門科目授業時間数			848	808	1,656
一般科目授業時間数			48	32	80
年間総授業時間数			896	840	1,736

※印の選択科目は授業時間数合計に含まれません。

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 2級建築士（国家資格）⇒卒業と同時に受験資格取得
- 1級建築士（国家資格）⇒4年の実務経験で受験資格取得
- 2級建築施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中に受験可
- 2級福祉住環境コーディネーター2級（民間資格）⇒在学中に受験可

(2) 建築デザイン科 2年制 定員：30名 (男女)

お客様の要望をもとに、住宅や店舗、商業施設や公共施設など、快適で夢のある建築物をプロデュースできる建築設計のプロを目指します。建築に関する知識やデザイン力、設計スキルを習得し、さらには企画力やプレゼンテーションスキルも身に付けることで、建築業界の即戦力を育成します。また、1年次より設計コンペに参加し、日頃の学習の成果や自分の実力を確認しながら入賞を目指します。

■工業専門課程 建築デザイン科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・ 選択の 別	年間授業時間 数		合 計 時間 数
			1年次	2年次	
専門科目	建築計画Ⅰ	必修	32		32
	建築計画Ⅱ	必修		32	32
	建築史	必修	32		32
	住宅計画演習	必修	32		32
	建築計画演習	必修		96	96
	建築デザイン演習	必修		32	32
	環境工学	必修	32		32
	建築設備	必修	32		32
	構造力学Ⅰ	必修	64		64
	構造力学Ⅱ	必修		32	32
	一般構造Ⅰ	必修	32		32
	一般構造Ⅱ	必修		16	16
	住宅構造演習	必修	48		48
	建築材料	必修	32		32
	建築施工Ⅰ	必修	64		64
	建築施工Ⅱ	必修		32	32
	建築積算	必修		32	32
	建築法規Ⅰ	必修	64		64
	建築法規Ⅱ	必修		32	32
	建築設計演習Ⅰ	必修	32		32
建築設計演習Ⅱ	必修		32	32	

	建築関連法規	選択		※16	※16
	(学科授業時間数小計)		496	336	832
	設計製図 A	必修	96		96
	設計製図B	必修	48		48
	建築 CAD 設計 I	必修	96		96
	建築設計実習	必修		96	96
	材料実験	必修		24	24
	卒業制作	必修		240	240
	建築デザイン実習 I	必修	96		96
	建築デザイン実習 II	必修		96	96
	プレゼン技法	必修	32		
	(実習授業時間数小計)		368	456	824
一般科目	就職実務 I	必修	48		48
	就職実務 II	必修		32	32
	(学科授業時間数小計)		48	32	80
					0
	(実習授業時間数小計)		0	0	0
専門科目授業時間数			864	792	1,656
一般科目授業時間数			48	32	80
年間総授業時間数			912	824	1,736

※印の選択科目は授業時間数合計に含まれません。

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 2級建築士（国家資格）⇒卒業と同時に受験資格取得
- 1級建築士（国家資格）⇒4年の実務経験で受験資格取得
- 2級建築施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中（卒年次）に受験可
- 2級福祉住環境コーディネーター2級（民間資格）⇒在学中に受験可
- 建築CAD検定2級（民間検定）⇒在学中に受験可

【卒業後の進路】

- 建築士専攻科への進学
- ハウスメーカー、工務店、建築設計事務所への就職

(3) インテリアデザイン科 2年制 定員：20名 (男女)

建築とインテリアを両方学び、快適な室内空間を創り出す「デザインのプロ」と建築物の構造を把握した上で施工スキルを磨く「内装施工のプロ」を育成する学科です。また、手書きのパースやCGを使った画像など幅広いプレゼンテーションの技法や、お客様の要望に応える室内設計の技術、現場に即した内装技術の実習など、実習中心のカリキュラムでインテリアデザイナー・アドバイザー・施工技術者として実社会で活躍できる実践力を身に付けます。

■工業専門課程 インテリアデザイン科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・ 選択の 別	年間授業時間 数		合 計 時間 数
			1年次	2年次	
専門科目	建築計画Ⅰ	必修	32		32
	建築計画Ⅱ	必修		32	32
	建築史	必修	32		32
	住宅計画演習	必修	32		32
	環境工学	必修	32		32
	建築設備	必修	32		32
	構造力学Ⅰ	必修	64		64
	構造力学Ⅱ	必修		32	32
	一般構造Ⅰ	必修	32		32
	一般構造Ⅱ	必修		16	16
	建築材料	必修	32		32
	建築施工Ⅰ	必修	64		64
	建築施工Ⅱ	必修		32	32
	建築積算	必修		32	32
	建築法規Ⅰ	必修	64		64
	建築法規Ⅱ	必修		32	32
	カラーコーディネーション	必修	96		96
	インテリア概論Ⅰ	必修		48	48
	インテリア概論Ⅱ	必修		96	96
	(学科授業時間数小計)			512	320

	設計製図 A	必修	96		96
	設計製図 B	必修		48	48
	建築 CAD 設計 I	必修	96		96
	インテリア実習 I	必修	96		96
	インテリア実習 II	必修		96	96
	3Dインテリア I	必修	64		64
	3Dインテリア II	必修		48	48
	コーディネート実習 I	必修		96	96
	コーディネート実習 II	必修		64	64
	インテリア家具製作 I	必修	48		48
	インテリア家具製作 II	必修		48	48
	(実習授業時間数小計)		400	400	800
一般科目	就職実務 I	必修	48		48
	就職実務 II	必修		32	32
	PC実習	必修		64	64
	(学科授業時間数小計)		48	96	144
	(実習授業時間数小計)		0	0	0
専門科目授業時間数			912	720	1,632
一般科目授業時間数			48	96	144
年間総授業時間数			960	816	1,776

※印の選択科目は授業時間数合計に含まれません。

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- インテリアコーディネーター（民間資格）⇒在学中に受験可
- カラーコーディネーター検定試験（民間試験）⇒在学中に受験可
- 2級建築士（国家資格）⇒卒業と同時に受験資格取得
- 1級建築士（国家資格）⇒4年の実務経験で受験資格取得

【卒業後の進路】

- 建築士専攻科への進学
- ハウスメーカー、工務店、小売業、設備機器ショールームなどへの就職

(4) 建築大工科 2年制 定員：40名 (男女)

伝統的な匠の大工技術を習得できるのはもちろん、幅広い建築物に関する専門知識も2年間で習得し、2級建築士（国家資格）を卒業後すぐに受験できます。今の時代の大工職人は、技術を持っていることはもちろん、建築士という資格も持ち合わせていると、大工職人として仕事の幅が広がります。実習では、ノミやカンナなどの刃物を研ぐところから始まり、伝統的な技術や、最新の技術を身に付け、学生全員で1つの大きな構造物を作る実習などを通して、職人同士の連携を学んでいきます。又木造建築物の建て方を率先して見学するなど現場を見て学ぶ授業も実践しており、即戦力となれるようスキルアップし、多くの学生が大工業界に就職しています。

■工業専門課程 建築大工科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・ 選択の 別	年間授業時間 数		合計 時間 数
			1年次	2年次	
専門科目	建築計画Ⅰ	必修	32		32
	建築計画Ⅱ	必修		32	32
	建築史	必修	32		32
	住宅計画演習	必修	32		32
	環境工学	必修	32		32
	建築設備	必修	32		32
	構造力学Ⅰ	必修	64		64
	構造力学Ⅱ	必修		32	32
	一般構造Ⅰ	必修	32		32
	一般構造Ⅱ	必修		16	16
	住宅構造演習	必修		48	48
	木造知識演習	必修	48		48
	木造計画演習	必修		96	96
	建築材料	必修	32		32
	建築施工Ⅰ	必修	64		64
	建築施工Ⅱ	必修		32	32
	建築積算	必修		32	32
	建築法規Ⅰ	必修	64		64

	建築法規Ⅱ	必修		32	32
	(学科授業時間数小計)		464	320	784
	設計製図A	必修	96		96
	設計製図B	必修		48	48
	設計製図C	必修		48	48
	建築CAD設計I	必修	96		96
	架構実習I	必修	192		192
	架構実習Ⅱ	必修		192	192
	建築実習I	必修		144	144
	材料実験	必修		24	24
	(実習授業時間数小計)		384	456	840
一般科目	就職実務Ⅰ	必修	48		48
	就職実務Ⅱ	必修		32	32
	(学科授業時間数小計)		32	32	80
	PC実習	必修		48	48
	(実習授業時間数小計)		0	48	48
専門科目授業時間数			848	776	1,624
一般科目授業時間数			48	80	128
年間総授業時間数			896	856	1,752

※印の選択科目は授業時間数合計に含まれません。

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 建築大工技能士2級（国家資格）⇒3級合格後、在学中に受験可
- 建築大工技能士3級（国家資格）⇒在学中に受験可
- 2級建築士（国家資格）⇒卒業と同時に受験資格取得
- 1級建築士（国家資格）⇒4年の実務経験で受験資格取得
- 2級建築施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中（卒年次）に受験可

【卒業後の進路】

- 建築士専攻科への進学
- 工務店、ハウスメーカー、建設会社への就職

(5) 環境測量科 2年制 定員：30名 (男女)

本州日本海側唯一の測量士補養成施設として、都市計画や公共事業などのスケールの大きな仕事で活躍出来る測量のスペシャリストを育成します。測量・土木の基礎を学び、学校近くの広大な鳥屋野潟公園での多様な実習を中心に、専門的な技術を習得しています。さらには、環境保全に配慮できる専門知識も習得することで、未来の生活環境や国土を支えられる人材を目指します。

■工業専門課程 環境測量科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・選択の別	年間授業時間数		合計時間数
			1年次	2年次	
	測量に関する法規	必修	32		32
	測量学概論	必修	48		48
	測量に関する数学	必修	128		128
	測量に関する情報処理	必修	16		16
	基準点測量Ⅰ	必修	64		64
	基準点測量Ⅱ	必修		64	64
	水準測量	必修	32		32
	地形測量	必修		64	64
	写真測量	必修	64		64
	地図編集	必修		48	48
	応用測量	必修		64	64
	応用力学	必修	32		32
	水理学	必修	32		32
	土質工学	必修		32	32
	環境工学	必修	32		32
	土木材料学	必修	32		32
	建設工学概論	必修	96		96
	施工管理学	必修		96	96
	設計計画	必修		64	64
	建設機械	必修		16	16
専門科目	(学科授業時間数小計)		608	448	1,056
	測量に関する情報処理実習	必修	48		48

	基準点測量実習 I	必修	64		64
	基準点測量実習 II	必修		64	64
	水準測量実習	必修	32		32
	地形測量実習	必修		64	64
	写真測量実習	必修	64		64
	地図編集実習	必修		48	48
	応用測量実習	必修		64	64
	CAD実習	必修		96	96
	施工実習	必修		48	48
	(実習授業時間数小計)		208	384	592
	専門科目授業時間数		816	832	1,648
一般科目	就職実務	必修	48	32	80
	(学科授業時間数小計)		48	32	80
	(実習授業時間数小計)				
	一般科目授業時間数		48	32	80
	年間授業時間数		864	864	1,728

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 測量士補（国家資格）⇒卒業と同時に国家試験免除で資格取得可
- 測量士（国家資格）⇒卒業後2年の実務経験により国家試験免除で資格取得可
- 2級土木施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中（卒年次）に受験可
- 2級造園施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中（卒年次）に受験可

【卒業後の進路】

- 測量設計業、建設業への就職

(6) 電気電子工学科 2年制 定員：40名 (男女)

電車や工場等の大規模な受電設備から一般住宅の配線まで、トータルに対応できるエンジニアを育成します。さらに、デジタル放送や光通信の技術も実践的に習得し、暮らしを支える電気通信のスペシャリストを目指します。卒業時に、第2種電気工事士が国家試験免除で取得できますが、在学中にさらに上位の第1種電気工事士試験にも挑戦し、業界就職に結びつけます。

■工業専門課程 電気電子工学科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・選択の別			合計 時間数	
			1年次	2年次		
専門科目	電気理論Ⅰ	必修	80		80	
	電気理論Ⅱ	必修	48		48	
	配電理論	必修	36		36	
	機器・材料・工具	必修	80	32	112	
	施工方法	必修	64	20	84	
	検査	必修		18	18	
	配線図	必修		64	64	
	保安法令	必修		64	64	
	電気通信の技術	必修	90		90	
	電気通信の法規	必修	30		30	
	建築概論	必修		16	16	
	施工管理法	必修		48	48	
	電気保全	必修		32	32	
	ゼミ	必修		160	160	
		(学科授業時間数小計)		428	454	882
		電気工事实習	必修	352	336	688
	(実習授業時間数小計)		352	336	688	
一般科目	就職実務	必修	48	32	80	

(学科授業時間数小計)		48	32	80
OA実習	必修	64		64
IT実習			64	64
(実習授業時間数小計)		64	64	128
専門科目授業時間数		780	790	1,570
一般科目授業時間数		112	96	208
年間総授業時間数		892	886	1,778

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 第2種電気工事士（国家資格）⇒卒業と同時に国家試験免除で資格取得可
- 第1種電気工事士（国家資格）⇒在学中に受験可
- 2級電気工事施工管理技術検定学科試験（国家試験）⇒在学中（卒年次）に受験可
- 工事担任者（国家資格）⇒在学中に受験可

【卒業後の進路】

- 電気工事業、通信工事業、製造業への就職

(7) ものづくり工学科 2年制 定員：30名 (男女)

2次元・3次元CAD操作を身に付けながら、工業製品や部品を中心に図面の読み方、書き方を習得します。また、実際に旋盤、NCフライス盤などを使用して、機械・機構部品などの加工方法と金属製品や樹脂製品の機構部品の設計から加工・組立までをトータルに学ぶと共に豊かな発想力で付加価値の高い商品開発能力を身に付けることを目指します。

■工業専門課程 ものづくり工学科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・選択の別	年間授業時間数		合計時間数
			1年次	2年次	
専門科目	材料力学	必修	64	64	128
	機構学	必修	32		32
	機械設計	必修	32		32
	機械材料	必修	32		32
	ものづくり発想法	必修	96	96	192
	電子制御	必修		96	96
	知的創作演習	必修	16		16
	(学科授業時間数小計)		272	256	528
	CAD製図	必修	96	96	192
	3D-CAD 実習	必修	48	96	144
	加工実習A	必修	96	96	128
	加工実習B	必修	96	96	192
	分解組立実習	必修	32		32
	卒業課題	必修		160	160
	(実習授業時間数小計)		368	544	912
	専門科目授業時間数		640	800	1440
一般科目	工業物理	必修	64		64
	基礎数学	必修	64		64
	就職実務	必修	48	32	80
	(学科授業時間数小計)		176	32	208
	OA実習	必修	64		64

	IT実習	必修		64	64
	(実習授業時間数小計)		64	64	128
	一般科目授業時間数		240	96	336
	年間授業時間数		880	896	1776

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- CADトレース技能審査（民間検定）⇒在学中に受験可
- ガス溶接技能講習⇒在学中に受講可
- アーク溶接特別教育⇒在学中に受講可
- 3次元CAD利用技術者試験（民間試験）⇒在学中に受験可

【卒業後の進路】

- 製造業への就職

(8) 建築設備システム科 2年制 定員：20名 (男女)

設備設計・自然エネルギーなど、幅広い建築設備に対応したスペシャリストを養成する新潟県唯一の学科です。実習ではCADを使って設備の図面作成能力を習得するだけでなく、実際の設備機材を使った本格的な設備機器実習を行うことで、業界の即戦力となるノウハウを身に付けます。

■工業専門課程 建築設備科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・選択の別	年間授業時間数		合計時間数 (注1)
			1年次	2年次	
専門科目	設備の物理	必修	96		96
	環境工学	必修	96		96
	消防設備	必修	96		96
	環境と設備	必修	48	48	96
	電気設備	必修	48	48	96
	建築設備施工	必修	48	48	96
	建築設備計画	必修		48	48
	建築一般構造	必須		48	48
	給排水衛生設備	必修		48	48
	管工事施工管理学	必修		96	96
	設備とエネルギー	必修		48	48
	(学科授業時間数小計)		432	432	864
	設備設計実習	必修	96	96	192
	建築設備CAD設計	必修	96	96	192
	設備施工実習	必修	96	96	192
	電気設備実習	必修	48	48	96
(実習授業時間数小計)		336	336	672	
専門科目授業時間数			768	768	1536
一般科目	就職実務	必修	32	32	64
	(学科授業時間数小計)		32	32	64
	OA実習	必修	64		64
	IT実習	必修		64	64

	(実習授業時間数小計)		64	64	128
	一般科目授業時間数		96	96	208
	年間授業時間数		864	864	1728

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 2級管工事施工管理技術検定学科試験（国家資格）⇒在学中に受験（申請中）
- ボイラー技士2級（国家資格）⇒在学中に受験可
- 消防設備士乙種（国家資格）⇒在学中に受験可

(9) 建築士専攻科 1年制 定員：30名 (男女)

2級建築士受験資格を持っていることが入学条件となり、在学中に「2級建築士」取得を目指す1年課程である。前期においては学科試験及び設計製図試験に向けた内容のとなっており、後期は実務的な専門知識と技術の習得を目指す。

■工業専門課程 建築士専攻科 カリキュラム

区分	授業科目	必修・選択の別	年間授業時間数		合計時間数
			1年次	2年次	
専門科目	建築計画Ⅲ	必須	80		80
	建築法規Ⅲ	必須	80		80
	建築構造Ⅲ	必須	112		112
	建築施工Ⅲ	必須	80		80
	(学科授業時間数小計)		352		352
	設計製図課題演習	必須	240		240
	建築実務実習	選択必須	256		256
	企業実習 A	選択必須	※(256)		※(256)
(実習授業時間数小計)		496		496	
一般科目	就職実務	必須	16		16
	コミュニケーション講座	選択	※(16)		※(16)
	(学科授業時間数小計)		16		16
(実習授業時間数小計)					
専門科目授業時間数			848		848
一般科目授業時間数			16		16
年間総授業時間数			864		864

【取得を目指す資格、合格を目指す検定】

- 2級建築士（国家資格）⇒在学中に受験可
- 福祉住環境コーディネーター2級 ⇒在学中に受験可
- 宅地建物取引主任者資格試験 ⇒ 在学中に受験可

【卒業後の進路】

- 建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、建設会社等への就職

(10) 資格取得、検定試験合格等の実績

資格・検定	平成27年度実績	平成28年度実績
●2級建築士	15名合格	13名合格
●インテリアコーディネーター	3名合格	2名合格
●2級建築施工管理技術検定学科試験	38名合格	19名合格
●2級土木施工管理技術検定学科試験	23名合格	12名合格
●2級管工事施工管理技術検定学科試験	16名合格	16名合格
●2級造園施工管理技術検定学科試験	4名合格	5名合格
●2級電気工事施工管理技術検定学科試験	20名合格	25名合格
●第二種電気工事士	22名合格	17名合格
●第一種電気工事士	18名合格	14名合格
●エネルギー管理士	—	1名合格
●第三種電気主任技術者	—	2名合格
●工事担任者(AI・DD総合種)	—	3名合格

コンペ・大会	平成27年度実績	平成28年度実績
●新潟建築賞設計コンペ (新潟県建築士会主催)	1件入賞	2件入賞
●パテントコンテスト/デザインパテント コンテスト (文部科学省、特許庁、日本弁理士会、工業所有権情報・研修館 共催)	—	1件入賞
●IDSコンペティション (にいがた産業創造機構主催)	1件入賞	—
●インテリアデザインコンペ (日本インテリアファブリックス協会主催)	1名入賞	1名入賞
●インテリアプランニングコンペ (日本インテリアプランニング協会主催)	—	3件入賞

(1 1) 進級・卒業の要件等

【卒業・進級基準】

- ・学科・演習・実習・実験 90%以上出席
- ・成績評価がすべて C 以上

【卒業・進級判定会議】

卒業・進級判定会議とは、科目認定保留学生（1科目でも定期考査の受験資格を失った学生および追試に合格しなかった学生）に関し、科目認定試験の受験を認めるかどうか、または留年となるかを判定する会議です。

【成績評価】

成績評価は、原則として各科目をその期末毎に行います。

(注) 同一名称であっても、末尾に I・II あるいは A・B 等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目になります。

成績評価は、検定取得状況、普段の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、提出課題、期末考査等の資料によってなされます。

算出法

- 成績評価は A, B, C, D の 4 段階になります。
- 実習・実験等の科目は、試験又はレポート、課題を課し、その成績と普段の授業態度等を含めて評価いたします。ただし、レポート、課題の未提出者は D 評価となり、卒業・進級判定会議対象者となります。

【評価基準】

- 学科の科目は 100 点満点換算で次の基準とします。

A (100~80) B (79~70) C (69~60)

D (59~0・不合格または不受験)

- 実習・実験等の科目は次の基準とします。

A : 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく優秀な学生。

B : 科目に対する理解および普段の授業態度が良好な学生。

C : 科目に対する理解および普段の態度がやや劣る学生。

D : 科目に対する理解および普段の授業態度が著しく劣る学生。

【カレッジリーグフィールドワークプログラム (CFP)】

目的

新潟工科専門学校における教育方針の 1 つである「豊かな人間性の育成」の実現に向けて、本校内外の課外活動、行事への参加を推進し、本校学生の自己啓発意欲の育成を図る。

構成

A 名 称 カレッジリーグ フィールドワークプログラム (CFP)

B 概 要 本校主催の行事・活動など、選択による行事への参加により、CFPの規定点(各科、各年度で異なることがある)を取得することができます。選択による行事とは、CFPにおける得点取得の対象として認められる行事をいい、これには①指定選択行事、及び②自由選択行事があります。

内容・範囲

指定選択行事：本校、姉妹校、または他の関連団体が主催する行事・活動であって、本校が指定するもの。

自由選択行事：学生の自由意志に基づき、事前に申請書を提出し、参加による得点取得が了承されたもの。

(原則として、学生が卒業後に技術者および企業人として活躍するための素養を培うものとして認められるもの)

具体的には次のようなものになります。

- a. 各学科に関するイベント、フェア、講演会等
- b. 各学科に関するアルバイト、正規授業外のインターンシップ(10時間以上のもの、学業に差し支えない程度であること一)
- c. 各種カルチャー教室、通信教育等
- d. 美術展等教養文化的色彩の強いイベント、フェア、講演会等

規定点について

年間で取得しなければならない規定点を3点とし、各自、指定選択あるいは自由選択行事に3回以上参加してください。

3. 教職員

(1) 常勤教職員

・常勤教員数 12名

1級建築士(2名) 2級建築士(1名) 1級建築施工管理技士(2名) インテリアコーディネーター(2名) 測量士(4名) 1級土木施工管理技士(3名) 第1種電気工事士(2名) 工事担任者(2名) エネルギー管理士(1名) 環境計量士(1名) 1級造園施工管理技士(1名) 他
※資格を複数所有している教員あり。

・常勤職員 3名

(2) 非常勤教員 54名

1級建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、カラーコーディネーター、キッチンスペシャリスト、福祉住環境コーディネーター2級、測量士、第1種電気工事士、エネルギー管理士、環境計量士、建築設備士、宅建士など

4. 実践的職業教育

(1) 企業と連携した実習・演習

学 科：建築士学科

科 目：設計演習

連携目的： オリジナルの設計について学ぶ。

木造住宅の設計図作成前の基本的計画を設計事務所で実際行われている手法で設計条件をもとにゾーニング・エスキス～作図（手書き）を学び基本的な設計手法を身に付けることを目的とする。

学 科：建築士学科

科 目：CAD実習

連携目的： 現在社会で使われている初歩的な3Dソフトを使って3次元図面の表現方法を学びプレゼンテーション能力の向上を目的とする。

学 科：建築士学科

科 目：設計製図A

連携目的： 設計図面の知識と作図法（製図）の手順を設計事務所より学ぶ。

配置図・各階平面図、立面図、断面図、矩形図、各種伏図などの図面の目的を理解しながら作図技術の習得を目的とする。

学 科：建築士学科

科 目：建築総合実習

連携目的： 設計手法、作図法を学んだ技術と知識を基にコンペなどに入賞する力を身に付けるため、各テーマに対する思考力・対応力・表現力・プレゼンテーション力を習得することを目的とする。

学 科：建築デザイン科、建築士学科

科 目：建築CAD設計I

連携目的： 汎用性の高いCADソフトを使って、CAD図面の読み方、描き方を設計のプロから学ぶことで実社会で身に付けなければならない技術を習得すると共に設計者としての資質を身に付けることを目的とする。

学 科：建築デザイン科、建築士学科

科 目：材料実験

連携目的： 現場管理上とても重要な建築施工図と建築積算のプロからコンクリー

トと鉄筋の機械的性質を実験を通じて学ぶことで設計・施工管理に欠かせない知識と技術を習得することができる。又、業務経験を通じて現場における特に留意すべきことを知ることで実社会での仕事に役立つ。

学 科：建築デザイン科

科 目：建築計画演習

連携目的： 建築計画演習では幼稚園の設計経験の豊富な建築士からプランニング訓練を受けることで、最近の幼稚園・保育園の計画を体験できる。

学 科：建築デザイン科

科 目：建築設計実習

連携目的： 建築計画演習で得た知識と技術を活用し、実際に幼稚園をオリジナルで設計図を描くことの指導を受ける。プランニングでは知り得なかった詳細な図面の描き方と意匠・構造・設備など幅広い専門的技術の習得に繋げることを目指している

学 科：建築デザイン科、建築士学科

科 目：建築積算

連携目的： 建築積算を学び、建築物のコストの成り立ちを理解する。設計でも施工でも避けて通れない業務であるため、実践に即した形で理解を進める。

各工種のうち、これだけは知っておかなければならないという工種に絞り、積算の技術を会得する。

以上の実践的な知識や技術の習得を目的とする。

学 科：インテリアデザイン科

科 目：インテリア家具製作Ⅰ、Ⅱ

連携目的： 住宅のコーディネートにおいてインテリアのエレメントの一つである家具の製作工程を家具製作工場から家具製作実習を通じて製作工程の指導を受けることで特注家具・作り付家具の技術的知識を習得する。それによりインテリアデザイン～施工までの総合的技術者として成長することを目的とする。

学 科：インテリアデザイン科

科 目：設計製図A

連携目的： インテリアの世界では、店舗・住宅におけるリフォームの需要は高い。特に高齢化社会の中で福祉住環境に特化した木造住宅の改修工事が注目

されている。そのような仕事に携わる技術者として、新築～リフォームまでを業務としている企業から木造住宅に関する図面を読み取る力を修得し、より斬新なリノベーション技術者を目指した人材となるような教育連携を目的とする。

インテリアデザイン科の設計製図Aでは、木造の作図方法・表現方法を修得し図面を描け、読み取ることで、リフォームの仕事に携われることを目指す。

学 科：建築大工科

科 目：架構実習 I

連携目的： 在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につけることを目的とする。

大工道具の使用法、継手・仕口など大工として必要な技能の修得、現場での仕事の流れや共同作業の重要性などを工務店の棟梁から直接指導を受ける。

又、実際の現場などを見学し、大工仕事を肌で感じながら卒業後の職業としてのイメージを持つ。

学 科：電気電子工学科

科 目：電気工事实習

連携目的： 一般住宅やビル、工場などで使用する電気機器や屋内外配線及び昇柱訓練を行い電気工事士としての技術・技能・知識を習得することを目的とする。

学 科：環境測量科

科 目：応用測量実習

連携目的： 応用測量には路線測量、用地測量、河川測量がある。その中の河川測量については学校の施設では実施できない。企業からの指導で河底の地形情報を習得するための実習を目的とする。

学 科：環境測量科

科 目：基準点測量実習 I

連携目的： 現在、測量で位置（座標値）を求める方法として、人工衛星を利用する方法が多くなっている。当校の所有する機器はGPS衛星の電波しか受信できないため、GPS衛星とグロナス衛星の双方の電波を受信できる機器（GNSS測量機）を体験することを目的とする。

企業より専門技術者が来校し、GNSS 測量機を初期設定の段階から学生に操作方法等の指導を行ってもらう。

学 科：環境測量科

科 目：地形測量実習

連携目的： 新しい地形測量の方法として、車からレーザーを発射し走行しながら地形を測ることが導入されている。企業の指導の下、企業が所有している車両に乗車して作業し、解析作業についての技術・知識を習得することを目的とする。

学 科：ものづくり工学科

科 目：知的創作演習

連携目的： 「ものづくり」は日本の成長を支えてきた産業である。しかし、ものづくりのグローバル化により価格や品質で外国との差別化が出来ていないのが課題となっている。差別化のためには知的財産を広く学び特許取得の重要性を認識しそれに対応できる技術者の育成が必要となる。そこで、発想法や特許取得について豊富な経験と知識をもつ企業から直接学び付加価値の高いものづくりが提案できる知識・技術の習得をこの授業の目的とする。

知的財産の基礎知識の習得とそれを実際のモノに表現しパテントとしてまとめるに至るまでを学習する。その成果物をコンテストなどに参加するまでをこの演習とする。

学 科：ものづくり工学科

科 目：加工実習A

連携目的： CAD/CAMを利用する機械加工法の中で主流となっている「Master Cam」を使用してモデリング、加工データの作成方法を学び、最新設備（加工機械）のある企業にて製品を加工することを体験する。それにより卒業後も最新機械の操作ができる人材育成を目的とする。

学 科：建築設備科、建築設備システム科

科 目：設備設計実習

連携目的： 給排水衛生設備、空気調和設備は建築設備の中においてメインの設備であり、技術は日進月歩のスピードで進化し再生可能エネルギーを利用した設備システムも普及している。そのような技術は常に最先端の技術知識をもつ企業からでなければ習得することは難しい状況である。

それにより、直接企業の先端技術に触れることで就職先での即戦力となることを目的とする。

学 科：建築設備科、建築設備システム科

科 目：建築設備CAD設計

連携目的： 設備設計実習で習得した知識と技術をもとに実践的なCAD設計技術の習得を目的とする。

学 科：建築設備科、建築設備システム科

科 目：設備施工実習

連携目的： 建築設備の設計・施工管理としての技術者にとって直接現場で行われている作業はとても重要である。企業の職人から実際に配管の作業を経験することで設計・施工管理に役立てることを目的とする。

(2) 就職支援体制

クラス担任制

各業界出身の専門講師による一人一人に合わせた個別指導を実施。又授業では、独自の就職カリキュラムを採用し、就職活動に必要な知識・スキルも合わせて身につける。

キャリア・カウンセラー

N I Tには各業界を熟知したキャリア・カウンセラーが常駐。学生の進路選択を手助けするうえで、個人の興味、能力、価値観、その他特性をもとに、学生個々に適した職業選択をサポートしている。

進路相談室

校内に厚生労働大臣届出「無料職業紹介所」を設置。WEBシステムを常時完備し、最新の求人情報はもちろん、会社訪問、面接対策など、専任職員による徹底サポート体制が確立されている。進路が決定するまで個別にフォローを行っている。

業界・OB・OGネットワーク

N I Tでは関係する様々な業界とのネットワークにより、求人情報や業界動向をいち早く取得し、学生へフィードバックしている。又、各業界で活躍している5,000名以上の卒業生を通し、多くの求人情報が寄せられている。

就職セミナー

進路相談室主催の就職セミナーを実施。就職活動のアドバイスや卒業生の体験談など、就職活動に向けての心構えを指導している。

5. 様々な教育活動・教育環境

(1) 学校行事への取組状況

国内研修

1年次において専門課程への動機付け教育として国内における専門分野の一流に触れる研修を行っている。各科毎でそれぞれの専門分野が体験できるプログラムを組みその時代に応じた内容としている。

海外研修

2年次において専門課程での世界一流となる専門技術やデザインを学ぶため海外での視察研修を実施している。普段はなかなか海外に出かける機会が無い中で国内を出ることで異文化を体験することが出来、外から日本を見ることも将来の仕事に役立つと考えている。

クラス行事

各クラス毎で、スポーツ大会やバーベキュー大会などクラスでの懇親を深めるためのイベントを行っている。

(2) 課外活動

校外清掃

毎週一日、近隣の公園や道路を中心に清掃活動を行っている。毎週クラス単位で当番制としている。